

重さの授業を楽しく

原町市立石神第二小学校教諭

松本安彦

一はじめに

る。

二 授業の実際

「重さの指導はむずかしい」ということをよく聞く。重さは、長さや面積のよう、「重さという量はこれだよ」と視覚的に訴えることができないで

指導する側からはたいへん指導しにくい内容となっているようだ。

また、児童にとっては、なんといつても、重さという“量そのもの”を目で見る”ことができないところに、学習にむずかしさをおぼえる原因があるようである。

次に、子供は、日常生活の中では“重い”“軽い”という言葉をなんの抵抗もなしに、感覚的に使っているが

このような感覚的なとらえ方を“物には重さという量が存在する”という認識にまで高めるために、どのような指導の手立てを講じたらよいか、迷うところにむずかしさがあるようだ。

ところで、楽しい算数の授業について考えてみると、問題そのものが子供の興味や関心をひく場合、適度の抵抗がある問題で、自力で解決が困難な場合、結果として、問題が解けやすくわかった場合の三つに子供は楽しい授業を意識しているようである。

そこで、ここでは、一人一人に自分で重みを操作させること、すなわち自分の手で実験し、操作することによって、重さの概念を理解するねらいをもつて、指導した例について述べてみ

となどを自作のてんびんを操作させることによって、理解させていただきたい。

(一) 実施学年 三年三組 (四十名)

(二) 単元名 重さ

(三) 単元の目標

① 重さは長さやかさと同じように、単位とする大きさを決めて測定できる量であることを知らせ、重さを比べたり、測定したりする経験を通して、重さの概念を理解させる。

② 重さの単位(キログラム、グラム)を理解させる。

③ 秤の読み方と用い方を知らせるとともに、いろいろな物を測定することを通して、重さに対する量感を養う。

④ 正味・風袋・全体の重さとの関係を知らせ、物の重さを正確に測る力を伸ばす。

(四) 事前テストの考察

各家庭で秤を使つたり、身体測定などで体重を測つたりしているので、單位や読み方は知っている子がいる。反面、非常に軽い物、小さい物、測定しにくい物などには、重さがないと考えている子供がほとんどである。

(五) 実際の指導にあたつて

重さと体積との分離を図つて、重さとはこういう量なのだと、やや空気などには重さがないと考える。児童がほとんどであることから、全の物には重さがある」というこ

(六) 指導過程 (資料2)

授業の実際

てんびんの扱い方が、やや不慣れ